「青少年国際交流セミナー2023～身近な多様性！五感を使って体験しよう～」

主催：公益財団法人かながわ国際交流財団（KIF）

協力：神奈川県立横浜平沼高校

後援：神奈川県教育委員会/一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会

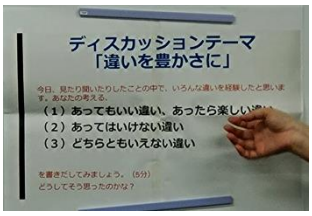
12 月 16 日（土）、本校の生徒 3 名を含む 22 人の高校生世代が県内から集まり、横浜駅周辺を中心とした多国籍ショップ見学、ミニレクチャー、外国人へのインタビュー、ランチ交流会、グループワークを行いました。ハラルショップでは普段利用するスーパーマーケット等では目にすることのないハラル食材や、ハーブの香る赤い歯磨き粉、ネパール出身の講師の方が子どもの頃から慣れ親しんだビスケットが販売されている様子を見学しました。お店の中は様々なスパイスの香りで満たされていました。本校から徒歩で 5 分程の場所にこのようなお店があり、日本の人にとっては物珍しさを感じる商品も、実は誰かにとってはなくてはならないものだというお話を聞きました。

その後、セミナー会場に場所を移して実施されたグループワークでは、ハラルショップの感想や今回のセミナーに応募した動機に関するアイスブレイクから始まり、事前学習の動画も踏まえ、県内在住外国人の増加の背景や関連する課題について高校生世代がディスカッションを行いました。いずれの参加者も、初対面のメンバー達と積極的に意見を交換し、大変、有意義な時間を過ごしました。

次のセッションは「多言語支援センターかながわ」から 10 名程のゲスト（スペイン語、ベトナム語、中国語、タガログ語、タイ語、ポルトガル語、インドネシア語話者の方々）をお迎えした交流でした。「多言語支援センターかながわ」とは外国籍の県民や来県外国人の方への情報提供・通訳支援を様々な言語で行うセンターです。そこで活躍されている方々と直接、お話をすることで参加者たちは多様性という言葉を身近に感じている様子でした。

ランチ交流では、美味しい本格的なネパールカレーの味や香り、店内の装飾や音楽を通し、このセミナーのテーマである「五感を使った身近な多様性の体験」をすることができました。

昼食後に訪れたかながわ県民センター2F、かながわ国際ファンクラブ「KANAFAN STATION」では中国から日本にやってきている方のお話を聞き、なぜ日本を選んだのか、留学をするうえで検討したポイントはどこか、国際化が進むとはどういうことなのか、といった点についてお話をいただきました。



最後に行ったディスカッションの内容は今日、気が付いた様々な文化的差異についてです。まとめとして参加者一人一人が考えたことや今後、意識したいことを共有し、「違いを豊かさに」というフレーズを確認して閉会となりました。

公益財団法人かながわ国際交流財団（KIF）をはじめとする皆様、本校生徒を含む高校生世代の参加者にとって大変、貴重な経験をする機会をご提供いただき、ありがとうございました。